

学力調査のデータを活用した 学力向上の取組について

2026.1.27

令和7年度第3回仙台市GIGAスクール推進協議会



仙台市教育委員会

概要

【取組】「**仙台市確かな学力研修委員会**」

【目的】

①宮城教育大学と連携しながら、**仙台市標準学力検査及び仙台市生活・学習状況調査、全国学力・学習状況調査の結果を分析・検証し、本市の児童生徒の学力の実態等を把握**する。

②分析や検証の結果、明らかになった本市の児童生徒の課題改善のための効果的な**指導方法や授業づくりのポイント等を各学校に周知**することで、教員の**指導方法の改善と授業実践力の向上**を図る。

【委員】

宮城教育大学、市立小・中学校（校長・教頭・教諭）

【市教委】

学びの連携推進室、教育センター、科学館

【活動】全6回/年開催

（第1回～第3回）「分析シート（結果分析・指導改善事例）」の作成及び学校への周知（10月末）

（第4回～第6回）授業力レベルアップ研修（1月末）に向けての準備・実施

指導改善事例における ICT活用状況

教科	目的・場面	方法
国語	・情報整理・要約・まとめ・考えの共有	ロイロノート
社会	・単元を貫くテーマづくり ・調べる・気づきメモ・関連付け・まとめ・考えの共有	資料提示 インターネット・ロイロノート
算数 数学	・考えの共有 ・変化する図形や複雑な図形のイメージ共有	ロイロノート シミュレーションソフト
理科	・考察の共有 ・繰り返せない実験や観察が難しい事物等の考察	ロイロノート 動画・画像提示
英語	・考えの共有 ・英作文能力の向上	ロイロノート 生成AI

事例【小5国語】

結果概要

結果分析

問題及び出題のねらいと解答状況

ア指導改善のポイント

改善事例

令和7年度小学校5年生国語 分析シート

<div data-bbox="637 328 1159 1021"><p>アカハライモリの防御行動</p><div><div>よく行う 冬</div><div>ケガをしたイモリ やせたイモリ</div></div><div><div>あまり行わない 夏</div><div>ア イモリ</div></div></div> <p>【筆者の考え】</p> <p>からだ冷えきって動きにくかったり、からだのぐあいが悪かったりして、イ ときに、防御行動をとるのかもしれない。</p> <p>整理図では「とき」、本文では「場合」と、異なる表現が使われている。</p>
--

事例【小5国語】

結果概要

結果分析

問題及び出題のねらいと解答状況

指導改善のポイント

改善事例

令和7年度小学校5年生国語 分析シート

POINT!

文章のまとまりを捉え、中心となる語や文を見つけるために

この設問では、第4段落の内容をまとめた整理図に空欄があり、そこにあてはまる言葉を文章中から抜き出すことが求められている。

正答率が低かった理由としては、設問の言葉が本文で別の表現に言い換えられていたことや文章の構成を十分に捉えられなかったことが、該当箇所を見付けることの難しさにつながったと考えられる。

これらの課題を解決するために、文章のまとまりの中心となる語や文を見付ける力の育成が重要である。また、正確に内容を捉えられていない児童には、叙述を基に筆者の考えや理由、具体例の関係性に着目させることが必要である。

指導に当たっては、文章中の筆者の考えや具体例を色分けして構成を可視化する工夫や、表を活用して要点を整理する工夫を取り入れ、文章構成やまとまりごとの内容を正確に読み取る力を育む授業を展開していきたい。

事例【小5国語】

結果概要

結果分析

問題及び出題のねらいと 解答状況

指導改善のポイント

改善事例

令和7年度小学校5年生国語 分析シート

「未来につなぐ工芸品」(「国語 4下」光村図書, p47～55)

1 指導のねらい

- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

(思考力、判断力、表現力等 C(1)ウ)

2 具体例(活動や指導)

〈身に付けさせたい力〉

文章中の言葉を手掛かりに、文章の構成やまとまりごとの内容を正確に把握し、要約する力

指導のポイント① 文章の構成やまとまりごとの内容を正確に把握させるための工夫

【第2時】筆者の考えや理由、具体例とその説明に、色分けして線を引かせる。

指導のポイント② 中心となる語や文を捉えさせるための工夫

【第3時】中心となる語や文の探し方を確かめ、表を活用して要点を整理させる。

指導のポイント③ 要約の仕方を押さえさせるための工夫

【第4時】要約をする際の具体的な手順やポイントを確かめ、文章を要約させる。

【全3時間】
手順ポイントを
つかませながら
計画的に指導

事例【小5国語】★ICT活用場面

結果概要

結果分析

問題及び出題のねらいと 解答状況

指導改善のポイント

改善事例

令和7年度小学校5年生国語 分析シート

⑦終わり	⑥⑤④③中	②①初め
工芸品をのこすことは、日本の文化やげいじゅつ、そして、かんきょうを未来につないでいくことになる。 工芸品を手にとってみてほしい。 「一人の職人」になってみりよくを伝えてほしい。	一つ目の理由は、工芸品が、日本の文化やげいじゅつを、未来につないでくれること。 当時の文化をわたしたちに伝えてくれている。 未来に今を伝えてくれる。 二つ目の理由は、かんきょうを未来につないでくれること。 材料や使い方の面で、かんきょうへの負担が少なく、というところがある。また、長く使えるように作られているので、こみをへらすことにもなる。	「工芸品」は職人の手仕事で一つ一つ作られているもの。 筆者は工芸品のよさを伝える仕事をしている。 工芸品を未来の日本にのこしていきたい。

ステップ3 第3時に要点を整理した表を活用し、要約する。
20字→50字→100字→200字と、
文字数を段階的に増やしていくことで、**重要な言葉や文を精選しながらまとめる力** を身に付けられるようにする。

「表に整理した要点を使い、読んでいない人にも内容が伝わるように書こう。」
200字：筆者の考えを支える理由を詳しく書いたり読み手へのメッセージなどの情報を付け足したりする。

発展「200字の要約に具体例や自分の考えを加えてさらに詳しい文章にしよう」
400字：200字の要約文に具体例や可能であれば自分の考えなどを付け加えて、より詳しく文章を書く。

「筆者が一番伝えたいことは何だろう？」
20字：最も重要な文を抜き出し文章の核となる部分を全員で共有する。

「理由を付け加えてみよう。」
50～100字：筆者の考えを支える理由や工芸品の定義を簡潔に付け加える。

工芸品を未来の日本にのこしていきたい。

日本の文化やげいじゅつ、かんきょうを未来につないでいくために、工芸品を未来の日本にのこしていきたい。

筆者は、職人の手仕事で一つ一つ作られている「工芸品」を、未来の日本にのこしていきたいと考えている。なぜなら、日本の文化やげいじゅつ、かんきょうを未来につないでいくことができるからである。

工芸品は職人の手仕事で一つ一つ作られているものであり、筆者は未来の日本にのこしていきたいと考えている。理由は二つあり、一つ目は、工芸品が日本の文化やげいじゅつを未来につないでくれることである。二つ目は、かんきょうへの負担が少なく長く使えるように作られているため、かんきょうを未来につないでくれることである。筆者は、読み手に、工芸品を手に取り、「一人の職人」としてみりよくを伝えてほしいと考えている。

★ロイロノート
・文字数の確認
・加除訂正
・読み合い
・全体共有
がしやすく便利

文字数
199

参考：全国学力・学習状況調査結果からみる本市の ICT活用成果

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)より(令和7年7月 文部科学省・国立教育政策研究所)

○約8割の児童生徒が ICT 機器で「文章を作成する(文字、コメントを書くなど)」ことができる、約9割の児童生徒が「インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)」ことができると考えている。

→仙台市は小中学校ともに全国を上回る結果となっている

○ICT 機器を活用できると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向がみられる。CBT で実施した中学校理科と PBT で実施した教科との間で、この傾向に大きな違いは見られない。

→仙台市も全国の分析と同様の結果がみられる

児童生徒質問調査質問項目

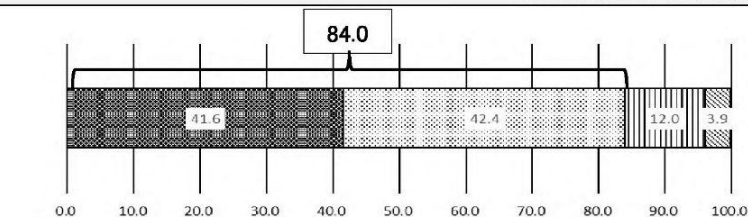
【29-1～29-4】あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って以下のことができますか。(R7 新規)

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

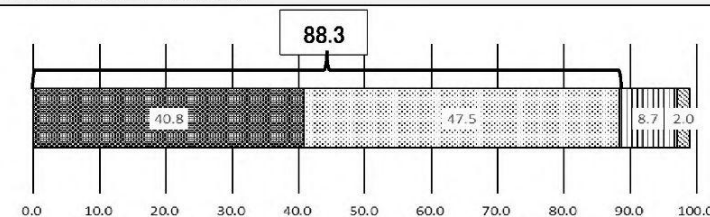
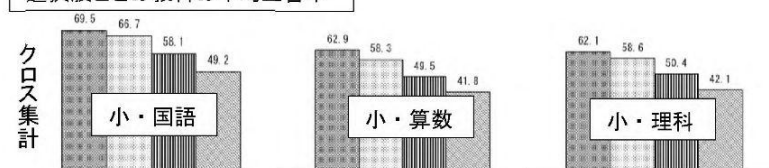
小学校

中学校

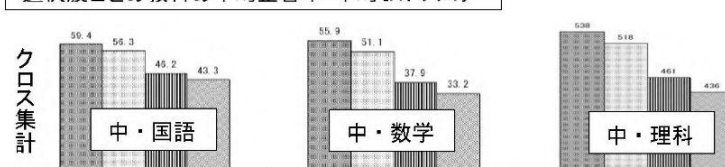
(1)文章を作成する(文字、コメントを書くなど)



選択肢ごとの教科の平均正答率



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均 IRT スコア



令和7年度全国学力・学習状況調査結果より仙台市分を集計

今後の展望

1 「確かな学力向上研修委員会」の取組を通じて、学力調査 のデータを基にした指導の改善と充実に資する事例の発信

を継続する中で、ICTの効果的な活用法について共有する。

2 情報化推進係や教育センター等と連携を通じて、「確かな 学力向上研修委員会」の取組の充実を図る。